

ベルリンオリンピックにおけるオリンピックの政治利用からみるオリンピックの危険性

Danger of Olympic games considered from political abuse of Berlin Olympic games

1K03B084-6

小林 直人

指導教員

主査 リー・トンブソン先生

副査 石井昌幸先生

【研究の目的】

現在、平和の祭典であるオリンピックは、参加国数、競技人数、注目度などのあらゆる面において、ますます大きなビッグイベントへと変貌し続けている。しかし、この華々しい国際的なビッグイベントには、多くの問題を抱えてきた歴史が存在する。その問題は、政治、人種、宗教、ナショナリズム、などさまざまな側面にわたり、オリンピックの存在意義を脅かしてきたものである。また、これらの諸問題は歴史の産物になったのではなく、現在のオリンピックにおいても存在するものである。本論は、このようなオリンピックの存在意義を危うくさせている既存の諸問題について述べたものであり、これらを検証・考察することによって、オリンピックの持つ危険性のほんの一握りを明らかにし、その危険をどうすれば少しでも減らすことができるのか、検討することを目的としている。以上の想いのもと、政治加入・ナショナリズムの混在・行き過ぎた商業化とビッグスポーツイベントであるオリンピックを取り巻いてきた環境が劇的に変化をとげてきた歴史の中で、とりわけ政治色の強かったとされている、1936 年に行われた第 11 回大会であるベルリンオリンピックについて研究することで、オリンピックの政治関与による危険性を検証できるのではという考えに至り、ベルリンオリンピックを研究テーマの中心において論じている。

【研究の進め方】

ベルリンオリンピックの政治関与を論じるためには、ベルリンオリンピックがどのような大会であったのか、知る必要がある。そこで、第 1 章ではベルリンオリンピックのきらびやかな側面とその裏に隠されたナチオリンピックと呼ばれる側面を大まかに説明していく。ナチオリンピックとは、1933 年にドイツ政権を奪取したアドルフ・ヒトラー率いる国民社会主義ドイツ労働者党（通称ナチス）の手によって行われたベルリンオリンピックのことを意味するが、その裏には、多くの政治的・社会的な問題が潜んでいたとされている。この点において、本大会は多くの危険を秘めた大会であったとともに本論のテーマになりうるのである。第 2 章では、大会開幕までの歴史的背景や開催国であるドイツ国内の社会的動向に注目していく。この歴史的視点と社会的視点からの検証により、オリンピックがいかに政治利用されたかを理解し、さらに、いかに周囲

の環境に影響をうけるものであるかを明らかにしていく。第 3 章では、これまでの検証をもとに、本大会の象徴物として存在する大会公式記録映画やオリンピックの鐘、聖火リレーについての検証をおこなう。これらの象徴物には、当然なんらかの意図が含まれていると考えることができるので、これらを掘り下げていくことで、そこにどのような意図を含ませようとしていたのか明らかにすることができる。また、この章において、オリンピックが意図されたものの集まりであり、それがゆえに危険を秘めていることを明確なものとしている。これら第 1 章から第 3 章の検証と考察をもとに第 4 章では、現在のオリンピックにも含まれているだろう危険について論じている。

【まとめ】

オリンピックがどのような大会になるか、ということは大会開催国とその周囲の環境に依存するところが大きい。これはオリンピックが現実の国際社会においてのみに存在することから必然的な問題だと考えられる。このように、スポーツイベントとして存在するオリンピックには社会的・政治的情勢に大きく影響を受けやすいという危険をはらんでいることがわかる。また、意図的に政治的・社会的側面を混入させたのがこのベルリンオリンピックであった。今回の「歴史的・社会的側面」からの考察においてみられたのは、政治・社会情勢との密接の関わり、スポーツにおける政治関与、イメージとしてのナショナリズムの形成であり、「視覚的宣伝」である象徴物からは、ナショナリズムの発信、意図されたプロパガンダの産物としての存在、オリンピックの創造物化があげられる。そして、これらはいずれもオリンピックの存在意義を脅かす危険性を秘めているという結論に至った。

【考察】

多かれ少なかれオリンピックには、周囲からの影響と周囲からの意図された側面が存在することは事実である。では、オリンピックにおいて、この危険性を回避・削減するためにはどうすればよいか、そのためにはオリンピックを「創造物」として扱うことが必要となるだろう。そのことを認識した上で、IOCはオリンピックのあるべき姿を断固として示し続けなければならないのだ。